



公羽草目次

上卷

故諺記

板倉周防守牛込時樂軒を喻す

伊賀守の智徳ニ

本多正信鷹匠たりし間の話及び其の評論三

本多正信加増を辞す四

本多正信嫡子を戒む

酒井隆永凱の弑凍

土井利徳松平信綱を諫む

儉徳

安後帶刀人を使ふ法



安後帯刀同苗者亮と稱ふ

青山伯耆守の徳之

井伊掃部頭の直言

智勇

板倉周防守職責を重んず

シ 證文

シ 伊賀守、周防守、竹笠を賜ふ

阿部重後守赤湯殿坊主をうらふ

シ 勢を放つ

シ 松平伊豆守と直言す

板倉内膳正の寛量

井上河内守の即智

井上河内守の仁徳

シ 稲子と諭す

シ 赤城より待安とを悔ふ

シ 早魁を見廻る

久世大和守御儀の虫を食ふ

以上

卷二

古老燭談 一九

土井大炊頭江戸城普請を付ての強

大久保彦左衛門、井伊直政を諭す

江州一ツ松の山初め付、板倉周防守の裁断

井上河内守百姓の律義を重んず

酒井權時若狹入國の時百姓の言を聴く
於平伊豆守大名旗本の説

ノ 願智

本多佐渡守の徳言

於平伊豆守の即智

ノ 法華僧侶を執りて

安後對守、酒井權時守、我ら子の言を聴く

由井正雪判の言より、酒井權時守紀別を對し

酒井修政大夫の寛量

南都室籠院宗子録社相の子

高島左近、東井孫兵衛、喧嘩の子

ノ 切腹す付、島田出也、評判の子

長常根才市の事

柳生但馬守核を河子子

大猷々御於齋、石谷十善、馬士相撲 二九

星野ノ島、大内門、和佐大八の子

越後屋八郎、大内門成立の子

以上

卷三 二七

富士山焼の子

京洛火并、禁裏炎上の子

細吉公、蒙御の子

卷四 五五

將軍宣下の子

家宣公の事

桑名家中野村増女麻判の事

繪島遠流の事

卷四 七三

木下清兵衛成立の事、并に坂八郎右衛門の事

仁村大橋新架

越前忠直卿の事、并に岩崎大鐵の事

根津權理由来

甲府細典卿病悩、并に向部内記の事

奥州白川騒動の事

常州保束村水論

密夫非密夫論

子供喧嘩罷死人の事、并に大岡越前守の事
見附書所供割の事

當代奇蹟人披草

行燈短架

茶湯

多波拾

披箱

木下長嗜の伝

重元院瘡の御製

御水尾院御製

堀田正成の歌

大猷院殿の歌

佐賀和田を六

前野織部、生駒将監より仇を報ず

伊多宗左衛門と御き

水野勝成羅船より逢ふ

女の作より文をやる作法

歌の石の火

奥の方言のつぼいけ

惟喬親王の墓

博富五十の歌

以上

卷六

九。

當代奇蹟披華

細川家の番木

大和言葉

本阿彌光悦の逸事當代三草の競争

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--